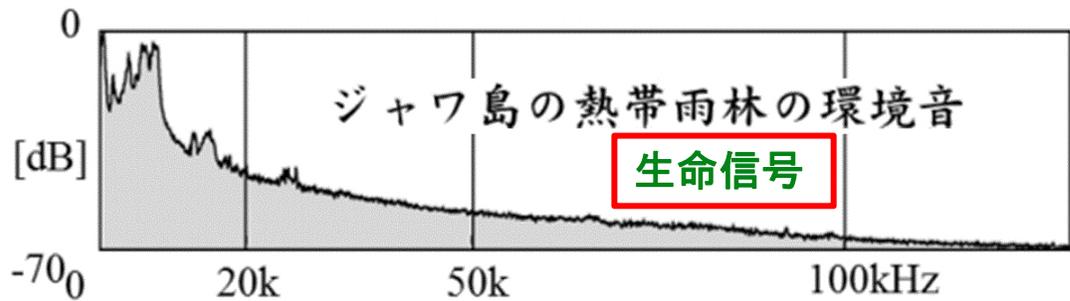
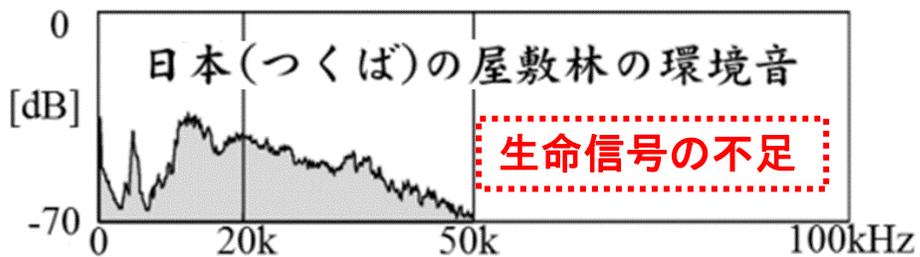


**「生命信号」を浴びると心身の機能が上がる。 静寂な空間や人工的な空間には「生命信号」が無いため、本領を発揮するのは無理。**



(出典: 大橋カ「ハイパーソニック・エフェクト」)

可聴音

非可聴音(超高周波音)



(出典: 筑波大学)



筑波病(つくばシンドローム)

1977年(昭和52年)~1988年(昭和63年)に自殺者が多発した。筑波研究学園都市は快適な環境の構築を目指して建設された最先端の計画都市であったが、大きく欠けていたものがあった。それが「生命信号」である。

その後には改善されたが、「生命信号」が不足していたため、研究者たちは本領を発揮できなかった。

Rain Forest Crickets Birds & Stream



生命信号は、多数の昆虫や鳥がコミュニケーションのために発する信号であり、その大半は非可聴音(超高周波音)で構成されている。ヒトの耳には聞こえないが、皮膚にて感知すると考えられている。皮膚で受容した生命信号は脳幹に送られ、無意識のうちに心身の機能が向上する。熱帯雨林に暮らす人々は皮膚の露出度が高いため、生命信号によって全身の機能が上がり、極めて快活な生活を営むことができる。